

ふるさとさばえ市民主役フォーラム

～市民が主役のまちづくりに向けて～

参加レポート



7月19日(月・祝)に、鯖江市区長会連合会の主催で開催された「ふるさとさばえ市民主役フォーラム」は、講師に前我孫子市長(千葉県)の福嶋浩彦氏を迎え、市民主役のまちづくりについて考えるイベントとなりました。



◆福嶋浩彦氏◆
1956年鳥取県生まれ。我孫子市議を経て、1995年に我孫子市長に当選。市民目線での先鋭的施策で全国からも注目される。2007年市長を退任。事業仕分け人なども務め、この夏から消費者庁長官に就任。

フォーラムは、福嶋氏の講演とトークセッションの2部構成。トークセッションには、福嶋氏の他に、区長会連合会の齋藤晋会長、吉田治副会長、(特)さばえNPOサポートの八田登師男理事長、鯖江市民主役条例推進委員会の蓑輪喜通委員長がパネラーで参加。市民活動団体連絡会の掃部哲雄座長が司会を務めました。

いっても、みんなが自分のことだけ主張しては、何も決められません。また、知らないところで勝手に決められてしまうのでは、市民が参加するチャンスもなくなってしまいます。

●そもそも「市民主役」って？

「民主主義」の文字の通り、この国の“あるじ”は「市民」です。でも、自分がそのひとりであることをどれくらいの人を感じているでしょう？

行政も議会も、市民のために活動しているわけですから、まずは私たちひとりひとりが責任を持ち、行政や地域の意志決定に関わっていくこと…それが、「市民主役」の出発点です。

だからこそ、地域や社会に関わることを「公開」することは、とても大切です。

行政のデータ、議論の過程、結論とその理由…そしてもちろん、市民から出てきた意見も公開されることで、色々な角度からもまれ、検証されることになりま。それが、多くの市民の合意につながるわけです。

●地域自治と市民活動

イベントを主催した区長会連合会は、住民自治の大きな役割を担っています。一方、NPOのような市民活動団体は、それとは別物と思われがちですが、地域や生活を良くする目標を持っている点では同じです。

今後、それぞれの立場で活動や窓口をオープンにすることで連携し、新しい「市民主役」社会の足もとを強くしていくことは決して夢物語ではありません。

行政も議会も自治会も団体も、そして市民も、それぞれが他の立場を尊重しながら議論し、意見をまとめ上げていくこと…それが「市民主役」のひとつの姿なのではないでしょうか？

●「公開」が重要！

市民＝自分が主役とは

▼会場となった
鶴陽会館の多目的ホール。



▲市民活動や男女参画に関わる30以上の団体のパネル展示も。

